

福岡フィルムコミッション支援作品 映画『中洲のこども』の
メディア・関係者試写及び舞台挨拶について

小説「真夜中の子供」を原作とした映画『中洲のこども』について、メディア・関係者試写及び舞台挨拶を開催いたします。

今作は、小説の原作者である辻仁成さんが自ら脚本・監督を務め、地元映像スタッフとともに、オール福岡（大半を中洲）で撮影されました。メディアのみなさまのご参加をお待ちしております。

～ 試写及び舞台挨拶 ～

【場所】

中洲大洋試写室（福岡市博多区中洲4-6-10 大洋ビル6階）

【日程、登壇者】

■令和5年6月16日（金）

17:30～ 開場、メディア受付（試写室前）

18:00～19:30 試写

19:30～20:00 舞台挨拶及び写真撮影

・登壇者（予定）

こがはやと 古賀迅人さん（主演）、こがそうた 古賀蒼大さん（主演）、むらいりょうた 村井良大さん 他

■令和5年6月18日（日）

13:30～ 開場、メディア受付（試写室前）

14:00～14:30 舞台挨拶及び写真撮影

14:30～16:00 試写

・登壇者（予定）

こがはやと 古賀迅人さん（主演）、こがそうた 古賀蒼大さん（主演）、とくながれいこ 徳永玲子さん 他



©αproduce japan

ロケ地は ほぼ中洲！
他に 柳橋連合市場、六軒屋公園 等

～ 上映情報 ～

【上映日】令和5年6月30日（金）～ 【上映場所】中洲大洋映画劇場

※上映初日舞台挨拶あり（時間未定）

登壇者（予定）古賀迅人さん、古賀蒼大さん、徳永玲子さん 他

～ 作品概要 ～

中洲交番勤務の警察官、響は巡回していた真夜中の公園通りの路地裏で幼い子供と出会う。その子供は蓮司、7歳。蓮司の両親は中洲で働くホストとホステス。二人は蓮司のことを放置し、構うことはない。無戸籍で小学校に通うこともない蓮司にとって、中洲は遊び場であり、生きていくために過ごすホームのような場所。そして、中洲の大人たちはそんな蓮司の境遇を思い、それぞれの立場で暖かい眼差しで見守る。笑って生き抜く、中洲で生きる人たちの生き様が孤独な少年蓮司の心を溶かして行く。そして蓮司は中洲のこどもになった。

◆ このリリースに関するお問い合わせ先 ◆

福岡フィルムコミッション事務局
(経済観光文化局コンテンツ振興課内)
担当：的野、古瀬
TEL 092-733-5171 (内線1803) FAX 092-711-4354
Mail contents.EPB@city.fukuoka.lg.jp

◆ 試写及び舞台挨拶、作品に関するお問い合わせ先 ◆

(有)アルファードプロデュース 担当：相川
Mail masumi-a@apjpsyu.com

中洲、どきも

古賀迅人 古賀蒼大 村井良大 世良公則 佐藤浩市

城戸咲菜 山本由貴 奥田幸治 鶴賀皇史朗 大國千緒奈 荒木民雄
徳永玲子 万丈 福澤究 鹿毛喜季 悠乃 あやんぬ 井口誠司 高橋佳成

原作：辻仁成「真夜中の子供」（河出書房新社）

監督・脚本・編集：辻仁成 撮影・照明：宗大介 録音：地福聖二 音楽：辻十斗 美術：中島信和

ラインプロデューサー：平田武司 撮影（博多祇園山笠）：薦井孝洋 監督補・助監督：長谷川テツ

制作担当：松本数秀 制作進行：才田浩輔 衣裳：平田美紀 ヘアメイク：松下史典/大久保網枝 着付け：LOVEHAIR/柿田美智子

演技事務：喜多村容子 アクション指導・振付：シマハラヒデキ タイトル字：杉田曠機

デザイン：西口詩穂 公式WEBサイト：小林デザイン事務所

エンドクレジット：永田秀翔 予告編クルー：Slinky Cloud

プロデューサー：相川満寿美 制作プロダクション：アルファープロデュース

中洲町連合会 博多祇園山笠振興会 中洲流の皆様 中洲の皆様 福岡フィルムコミッション

配給協力：LUDIQUÉ 2023年/日本/84分/カラー/シネマスコープ/5.1ch

© αproducejapan, All rights reserved in Japan / OfficeJT, All rights reserved worldwide except for Japan / 真夜中の子供製作委員会

あらすじ

中洲交番に新たに着任した警察官の響は、巡回していた中洲の橋で幼い子供と出会う。
その子供、7歳の蓮司には戸籍が無かった。

両親は歓楽街中洲で働くホストとホステス。二人は蓮司の世話をすることもなく、また構うこともない。
小学校にも通うことが出来ず、自宅にも居場所のない蓮司にとって中洲のまちは遊び場であり、生きていくためのホームのような場所だった。

中洲の大人たちはそんな蓮司の境遇を思い、それぞれの立場で暖かく見守っていた。
笑って生き抜く中洲で生きる人たちの生き様が、孤独な少年蓮司の心を溶かして行く。
そして、いつしか蓮司は、博多祇園山笠に魅了され中洲のこどもとなった。

日本国内にいる無戸籍の子どもは、おおよそ1000人。

本作は中洲の情景や博多祇園山笠の姿を映しながら、無戸籍の子どもが中洲の人々の支えによって成長していく様子を描いている。

家族を超えた絆、その序章を描いた物語である。



この映画のこと…

新型コロナウイルスにより、九州最大の繁華街中洲で撮影をしていたある映画が視界0になりました。
関係者たちはそれを気にしつつも、直ぐに全世界が自分の事を優先せざるを得ない状況になり、その映画は止まったままになってしまいました。

2021年の秋、ある少年に「僕の映画はもう撮れないんですか」と訊ねられました。

その一言をきっかけに、1人の福岡在住プロデューサーは沢山の福岡の方々がこの映画の状況を無念に思い、気に掛けているということを知りました。

そこから紆余曲折を経て、フランス在住の辻仁成監督にたどり着き、同じ気持ちであることを確認。

その後地元のクリエイター達に声をかけて、微々たる予算の中で映画制作が始まりました。

台本は作者である辻仁成監督が原作に基づき自ら新しく書き下ろし、次々と出てくる難問を皆でのりこえ、そして元の映画の映像も関係者のご協力を得て使用出来ることになり、原作は同じでも新しい時代へ復活する中洲に似合う“新しい作品”が完成しました。

その少年と中洲の方々へ贈るために。そして中洲を愛する私たちのために。

本作品には、関係した人々のこの4年間のストーリーが伴走しています。

コロナをのり越え、再生する中洲と共に生きる物語となりますように。



2023年6月30日～ 中洲大洋劇場にて公開